

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 4月 11日

【評価実施概要】

事業所番号	0173501107		
法人名	社会福祉法人 室蘭天照福祉会		
事業所名	グループホームフォレスト柏木		
所在地	室蘭市柏木町45番10号 (電話) 0143-58-3200		
評価機関名	北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年2月8日	評価確定日	平成20年4月11日

【情報提供票より】(19年12月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 15年 10月 7日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	16人, 非常勤 1人, 常勤換算 17人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	10,000~15,000 円
敷 金	<input checked="" type="checkbox"/> (45,000円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (<input type="checkbox"/> 円) <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 食費に含む 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要(12月25日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	9	要介護2	4		
要介護3	1	要介護4	1		
要介護5	2	要支援2	1		
年齢	平均 85.2 歳	最低	74 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新日鉄室蘭総合病院・下地内科外科・太平洋歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は室蘭市西側の高台に位置し、広大な敷地の中に設立している。職員は利用者の尊厳を大切にし、住みなれた地域の中で心が和むケアサービスを実践し笑いの絶えない環境づくりに取り組んでいる。また、敷地内にパークゴルフ場を整備し、地域住民に無料で開放するなど、地域に還元する取り組みを行っている。今後も地域に溶け込んだ生活の継続が期待できる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での課題であった「利用者の権利・義務の明示」については、入居契約書に文章化し、改善に取り組んでいる。また、「金銭管理」については適切に管理し、いつでも家族が出納帳を閲覧できるよう整備している。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員は自己評価を日々のケアサービスを振り返る機会と捉えており、全職員で取り組み、更なる質の向上に努めている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>利用者家族・民生委員・地域包括支援センター職員等を構成員とし、2ヶ月に1度運営推進会議を開催している。会議では他の事業所との共通議題についても話し合い、そこで出た意見や案を事業所の運営に反映させている。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>事業所内に意見・苦情等の投函ポストを設置し、家族が意見・要望等を伝えやすい工夫をしている。また、来訪時に職員は積極的な声かけをし、家族が気軽に話せるような雰囲気づくりに努めている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、地域の行事や活動に参加したり、敷地内のパークゴルフ場を利用して近隣住民と接する機会を設けるなど、地域との交流に努めている。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の個性を大切にし、地域において健康を維持しながらその人らしく生活できるような理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内に理念を掲示したり、職員個人の手帳やノートにも理念が添付されており、職員間で共有しながらその実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議の中で地域活動の情報交換を行っている。また、自治会に加入するとともに、地域の夏祭り等の行事や事業所敷地内のパークゴルフ場を開放し、地域住民が多数利用する機会の中で、利用者とお茶のひと時を楽しむことなどの他、定期的にボランティアによる押し花教室を開催し、交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は外部評価の意義を真摯に受けとめ、全職員で話し合い家族の意見を受け止めながら自己評価に取り組み、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族・民生委員・地域包括支援センター職員を構成員とし、運営推進会議を開催している。会議では様々な課題について話し合い、そこで出た意見を事業所の運営に反映させている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム連絡会を通じて地域包括支援センター職員と連携を取り、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に事業所便りを発行するとともに、3ヶ月に1度個別の便りを発行し、利用者の暮らしぶり等について詳しく家族に伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	投函ポストを設置し、家族が意見・要望等を伝えやすい工夫をしている。また、来訪時に職員は積極的な声かけをし、家族が気軽に話せるような雰囲気づくりに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動があった場合は広報誌に掲載し、家族に伝えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	看護師が中心となり内部研修を定期的を実施し、書類等を整備している。また、外部研修に参加したり他事業所職員と交流する機会を多く設け、職員のスキルアップを図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に4回広域連絡会の交流事業に参加し、同業者との意見交換等を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に利用者本人・家族が、いつでも事業所を見学できるよう体制を整えており、事業所の雰囲気に馴染んでからの入居となるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者とともに生活する中で、一人ひとりの力を発揮できるような場面づくりに取り組み、教えてもらいながら支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の様子から希望や意向の把握に努め、その人らしい生活となるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意見を取り入れ、職員間で話し合いながら利用者の状態に応じた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しを行うとともに、利用者の状態に変化があった場合はそのつど話し合い、看護師の意見を聞きながら現状に即した新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者家族が自由に宿泊できるような体制を整えるなど、柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の看護師による定期的な往診を受けるなど、利用者の健康状態について相談できる体制を整えており、利用者本人・家族の安心に繋がっている。また、通院についてのアドバイスを受けるなど、適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所では重度化・終末期に向けての方針やマニュアル化がなされている。また、勉強会や朝のミーティング等で事例を取り上げて話し合い、職員全員の意識の統一を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の状況に合わせ、誇りを損ねることのないような対応を心がけている。	○	トイレに男女兼用の個人名を記入した紙おむつが置いてあるため、今後は保管場所を検討し、より利用者のプライバシー等を配慮することが期待される。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者のペースを大切に、その人らしい生活となるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力量に応じ、食事の後片付けや食器洗い等を職員と一緒にやっている。また、一人ひとりの嗜好や状態を考慮し、調理方法を工夫し支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯など利用者の希望に合わせた入浴支援を行っている。また、声かけを工夫したりゆず湯を楽しむなど、利用者が寛いで入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者のできることを把握し、食後の後片付け・食器洗い・洗濯物たたみなど、一人ひとりの力に応じた役割の支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や理美容室・ぶどう狩りなど、利用者の希望に応じた外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上の理由から夜間は施錠しているが、日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。また、玄関の開閉時にチャイムが鳴るよう工夫し、職員は見守りながら利用者の安全面に配慮した支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力の下、避難訓練を実施している。また、日頃から法人と連携が取れるよう体制を整えているとともに、地域の代表等が参加する運営推進会議の席上で災害時の対応を議題として取り上げ、協力依頼や避難場所の確認も行っている。その際には、事業所の利用者について広報誌を閲覧してもらい、状況把握にも努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年に数回、法人の栄養士に献立を確認してもらい、栄養バランスの取れた食事内容となるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく広々とした共用空間には長いすを設置し、利用者が寛げるスペースを確保している。また、温湿度計を設置し、利用者が居心地良く過ごせるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れた馴染みの家具や装飾品が持ち込まれており、その人らしい環境づくりに努めている。また、押入れを設置しており、利用者が生活しやすいよう配慮している。		

※  は、重点項目。